



# 2019年12月期 第1四半期決算説明資料

2019年5月14日

株式会社ツバキ・ナカシマ

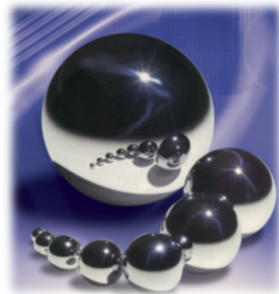
(東証一部 6464)



## 目次

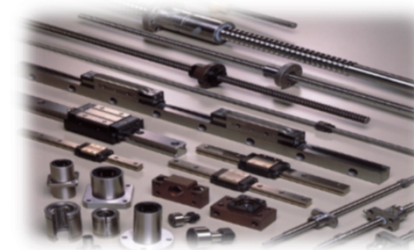
1. 2019年12月期 第1四半期実績 ..... P 2

### 「一球一心」



一つの球に一つの誠心、愛情をこめて鋼球を作り上げること。

### 「一精一誠」



誠は真心であり、精は精密・精神を意味する。仕事に真心を打ち込んで、魂のこもった精密で優れた製品を作り上げること。



# 1. 2019年12月期 第1四半期実績

# FY2019 1Q 業績トピックス



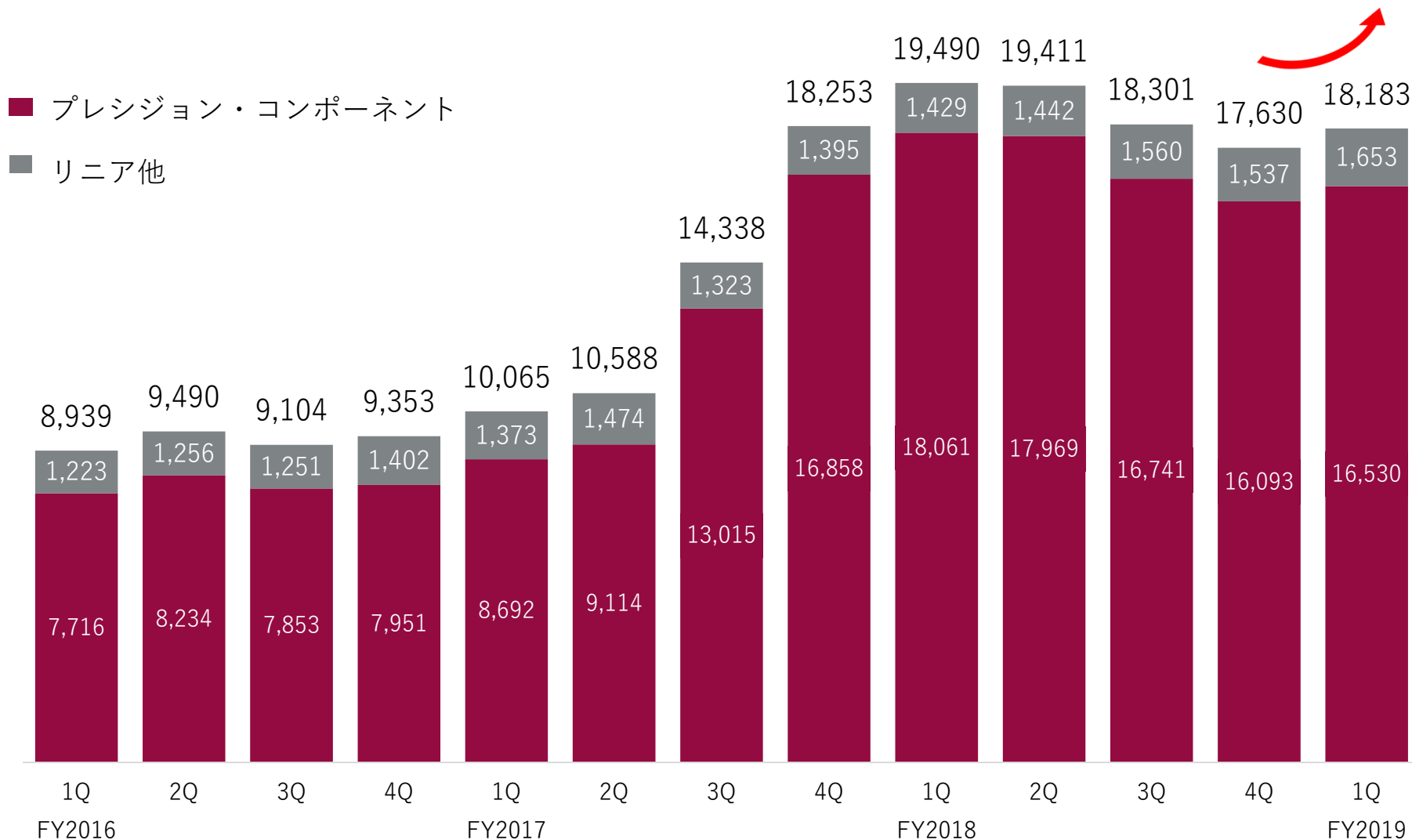
- 不安定なグローバル経済は継続したが、売上収益及び利益は前四半期比  
ポジティブな結果となった
- 売上収益は、前四半期比 + 3.1%と2018年4Qを上回る
- 営業利益は13.2%と前四半期を1.1%上回る
- シナジー効果は積み上がり当第1四半期への営業利益貢献額は82百万円  
となった
- 配当予想はガイダンス通りで、期初計画通りの年間81円を予定  
(YonY+2.5%)



# 四半期 連結売上収益推移

売上収益は前四半期比 + 3.1%と増加

(百万円)





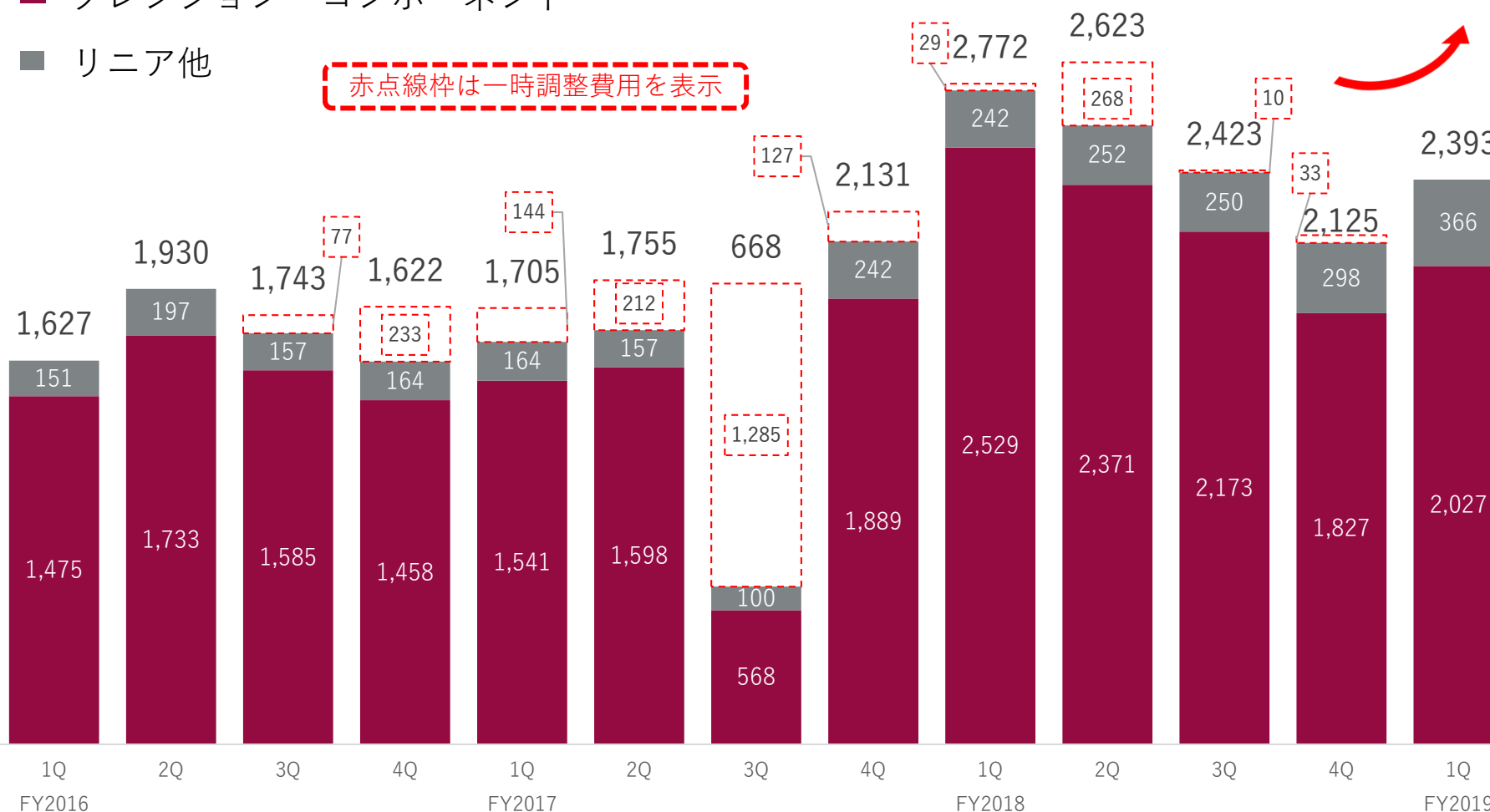
# 四半期 連結営業利益推移

営業利益は前四半期比 + 2.6億円、営業利益率 + 1.1%改善

(百万円)

- プレシジョン・コンポーネント
- リニア他

赤点線枠は一時調整費用を表示



# FY2019 1Q セグメント・地域別売上 前四半期比



プレジジョンコンポーネント、リニア他セグメント共に前四半期を上回る

(百万円)

	FY2018 4Q	FY2019 1Q		
	実績	実績	増減額	増減比
グループ連結	17,630	18,183	553	3.1%
プレジジョン・ コンポーネントセグメント	16,093	16,530	437	2.7%
日本	3,369	3,035	▲334	▲9.9%
北米	3,642	3,813	171	4.7%
欧州	5,785	6,575	790	13.7%
アジア	3,297	3,107	▲190	▲5.8%
リニア他セグメント	1,537	1,653	116	7.5%

プレジジョン・コンポーネントセグメントは産業用精密ボール、精密ローラー、精密スタンピング部品等のセグメントです。

# FY2019 1Q 連結業績



前年同期は売上収益、営業利益共に高水準であったため、前年同期比では共にマイナスとなった (百万円)

	2018 1Q	2019 1Q			
	実績	実績	為替影響	増減額 (※2)	増減比 (※2)
売上	19,490	18,183	▲569	▲738	▲3.8%
営業利益	2,772	2,393	▲60	▲318	▲11.5%
対売上(%)	14.2%	13.2%	—	—	—
EBITDA	3,670	3,234	▲90	▲346	▲9.4%
税前利益	2,381	2,224	175	▲332	▲14.0%
当期利益(※1)	1,737	1,645	165	▲257	▲14.8%

(※1) “当期利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期利益”を記載しております。

(※2) “増減額”及び“増減比”は為替影響を除いております。



# FY2019 1Qセグメント・地域別売上 前年同期比



前年同期は過去最高売上であったため、前年同期比ではマイナスとなった

(百万円)

	FY2018 1Q	FY2019 1Q			
	実績	実績	為替影響	増減額 (※1)	増減比 (※1)
グループ連結	19,490	18,183	▲569	▲738	▲3.8%
プレジジョン・コン ポーネントセグメント	18,061	16,530	▲560	▲971	▲5.4%
日本	3,312	3,035	—	▲277	▲8.4%
北米	3,760	3,813	66	▲13	▲0.4%
欧州	7,696	6,575	▲482	▲639	▲8.3%
アジア	3,293	3,107	▲144	▲42	▲1.3%
リニア他セグメント	1,429	1,653	▲9	233	16.3%

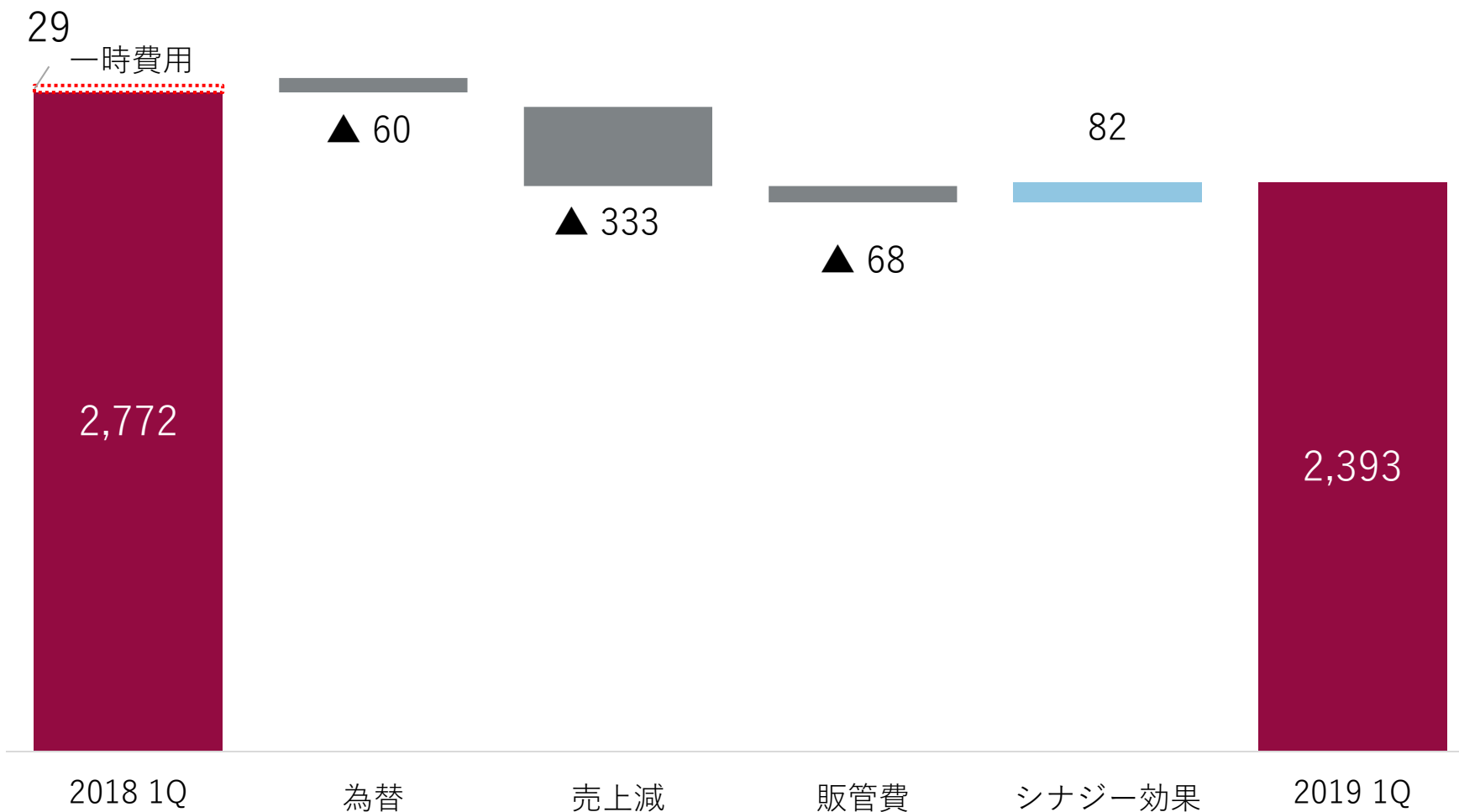
プレジジョン・コンポーネントセグメントは産業用精密ボール、精密ローラー、精密スタンピング部品等のセグメントです。  
(※1) “増減額”及び“増減比”は為替影響を除いております。

# FY2019 1Q営業利益 増減要因 前年同期比



シナジー効果の利益貢献は順調

(百万円)



(※)一時費用として、2018年は“外部調査委員会関連費用等”を計上しております。



# BS/CFにおける業績

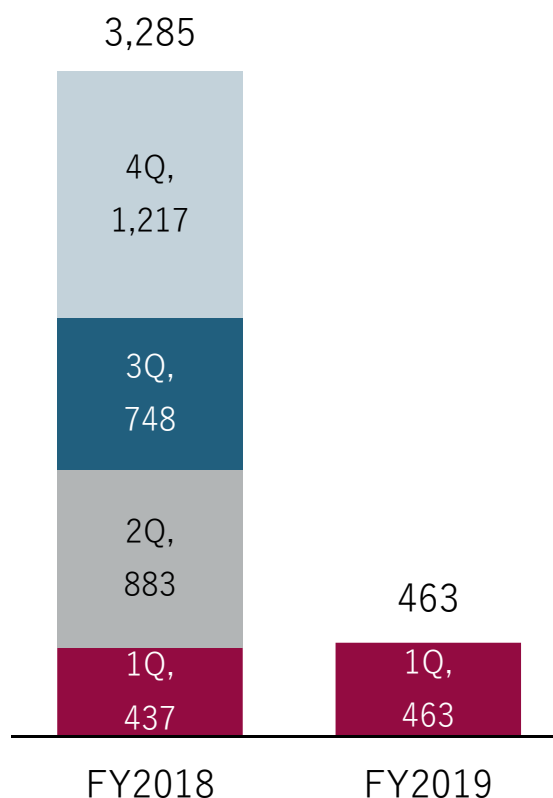
### 棚卸資産回転月数(月)

売上減により在庫増加。生産調整で正常化をめざす



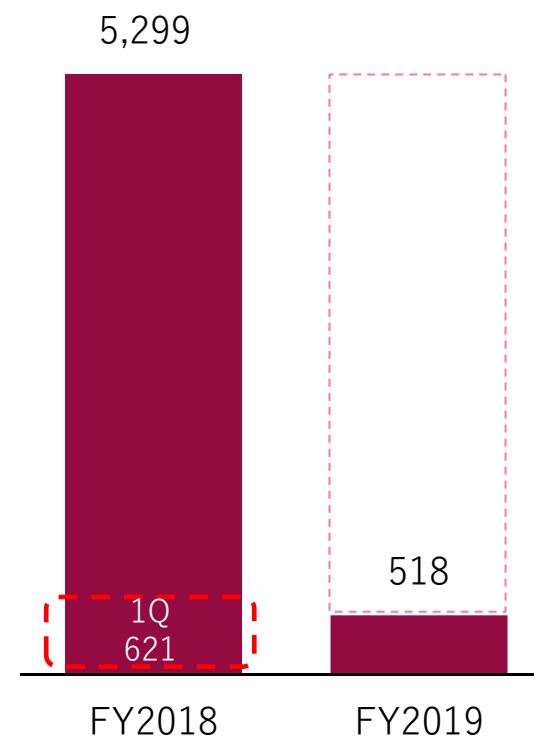
### 設備投資額(百万円)

米、中にてIT投資を実施



### 調整後FCF(百万円)※1

前年レベルのFCFを確保する



(※1) 2018年の調整後FCFには、米国税制改正に伴う一時支出等540百万円を除いて表示しております。

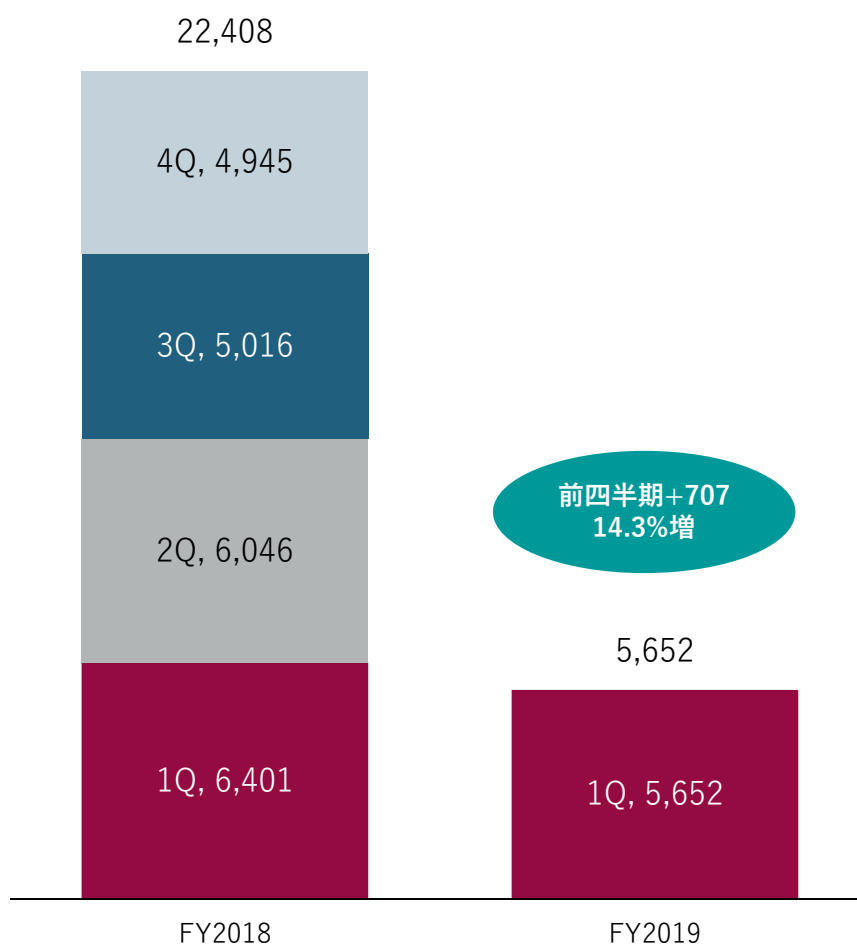


# FY2019 1Q 販売戦略進捗

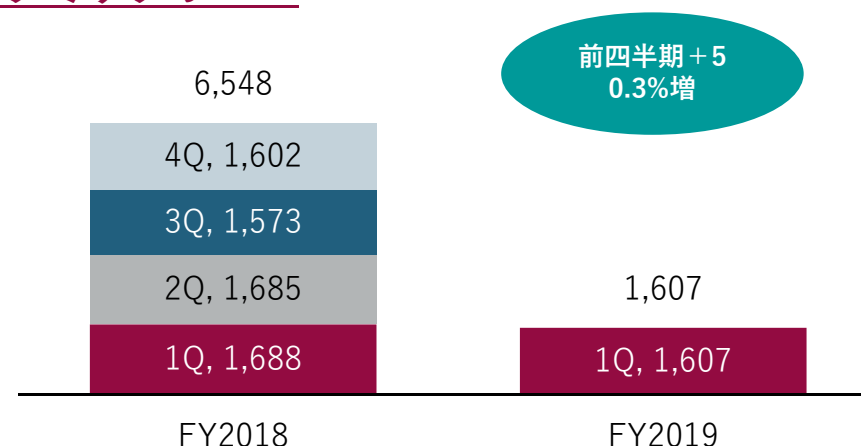
中国市場で前四半期割れとなったものの、販売活動は概ね着実に進捗

(百万円)

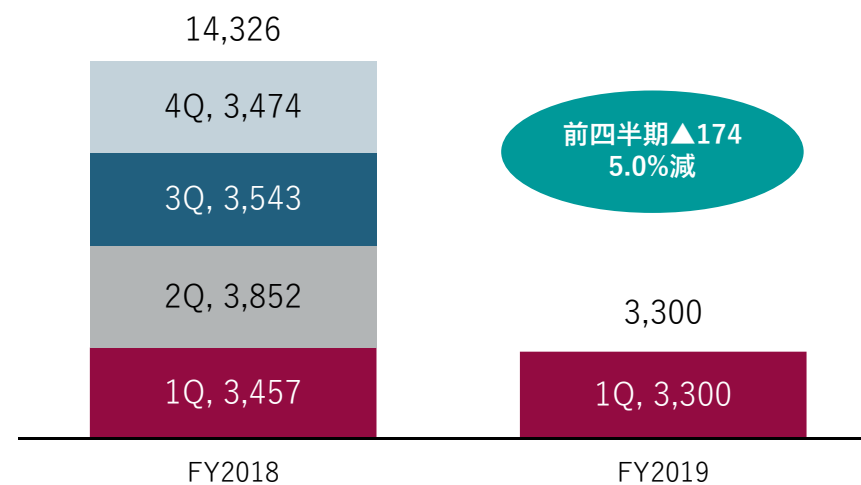
## 海外のお客様



## セラミックボール



## アジア市場





## 免責事項

本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載（推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます）が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。